

■ 無双直伝英信流居合・正座の部 11 本

● 1 本目「前」(横一文字+真っ向斬り) (23:31) ※立ち膝：右足

★正面に対座する敵の殺意を察知し、その機先を制して敵の顔面あるいは上膊部(じょうはくぶ)に横一文字に斬り付け、さらに真向上段より斬り下ろして倒す。



●左手で鯉口を切ると同時に右手で柄を握り、膝を合わせ腰を浮かしながら鞆頭を敵に向けつつ抜刀し、右足を前に踏み出すと同時に横一文字に抜き付ける(刃先は前方に一直線となる)。この一刀を避けた敵に対し、諸手上段の深い振りかぶりで真っ向から斬り下ろす。



横一文字の抜付け
体は敵に正対する

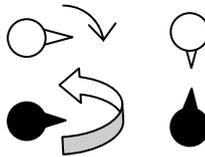
大血振るい(刀を右斜下にサッと振り下しながら左足を

右足に踏み揃えて居合腰で立つ)、右足を後方に大きく引いて納刀する。このとき、刀を2/3くらいまで納めると体を沈めはじめ右膝を床について納刀を終える。右足から立ち上がり、右手で鞆頭を押して鯉口を強く締める。

● 2 本目「右」(横一文字+真向斬り) (24:27) ※立ち膝：左足

★正面に対して右向きに正座。自分の左側に自分と同じ方向を向いて座っている敵の殺意を察し、機先を制して左向きに回転しつつ刀を抜き始め、敵と正対するや否や横一文字に抜き付け、続いて深い振りかぶりで真向上段より斬り下ろして倒す。

正面



左回転



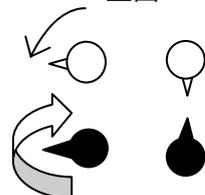
●刀を抜きつつ両爪先を立てながら、右膝頭を軸として左膝頭をを起こしつつ左方に回転し、左足を踏み出して横一文字に抜き付ける。のけ反った敵に対し、諸手上段の深い振りかぶりで真っ向から斬り下ろす。大血振るいして右足を左足に踏み揃え、居合腰で立つ。左足を後方に大きく引いて納刀。



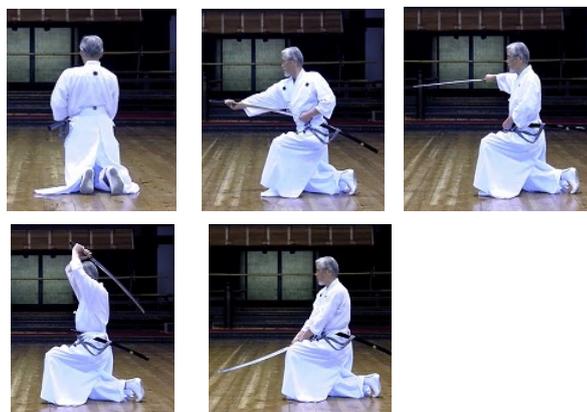
● 3 本目「左」(横一文字+真向斬り) (25:20) ※立ち膝：右足

★正面に対して左向きに正座。自分の右側に自分と同じ方向を向いて座っている敵の殺意を察し、機先を制して右向きに回転しつつ刀を抜き始め、敵と正対するや否や横一文字に抜き付け、さらに真向上段より斬り下ろして倒す。

正面

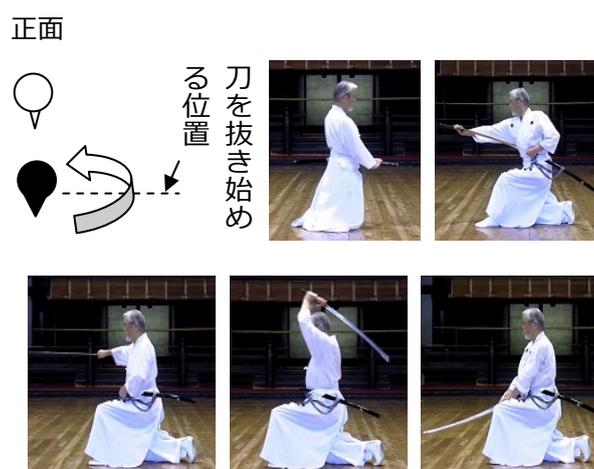


●刀を抜きつつ両爪先を立てながら，左膝頭を軸として右膝頭を起こしつつ右方に回転し，右足を踏み出して横一文字に抜き付ける。のけ反ってかわした敵に対し，諸手上段の深い振りかぶりで真っ向から斬り下ろす。大血振るいし，左足を右足に踏み揃えて居合腰で立つ。右足を後方に大きく引いて納刀。



●4 本目「後」(横一文字+真向斬り) (26:13) ※立ち膝：左足

●正面に対して後ろ向きに正座。自分の後ろに座っている敵の殺意を察し，右膝頭を軸として左方に回り，体が90度回転したところで刀を抜き始め，敵と正対するや否や左足を踏み出し横一文字に抜き付ける。のけ反った敵に対し，諸手上段の深い振りかぶりで真っ向から斬り下ろす。大血振るい，血振り刀を右斜下にサッと振り下しながら右足を左足に踏み揃えて居合腰で立つ。左足を後方に大きく引いて納刀。



●5 本目「八重垣」(横一+真向+横血振るい，脛囲い+真向) (27:04) ※立ち膝：右足

●正面に対座している敵の殺意を察知し一本目「前」と同じように横一文字に抜き付ける。初太刀をのけ反って避けた敵に対し，すぐさま左足を踏み出して上段より斬り下ろす。横の血振るいをして納刀。鍔元近くまで納刀したとき，倒れた敵が右足近くを薙ぎ切りしてきたので左足を大きく引いて抜刀し，敵の刀を右足の外，右方に受け払う(脛囲い)。直ちに左足を進めて膝を折り，膝頭を床に付けながら諸手上段に振りかぶって真っ向から斬り下ろす。横の血振るい、納刀。



●6 本目「受流」(受流し+真向) (23:46) ※立ち膝：左足

●正面に対し右斜め向き(約15度)で正座。左斜側の立居の敵が抜刀したのを見て，刀を半ば抜き，左足を少し右膝前に出して立ち上がりながら刀を抜き出し頭上に切り込んでくる敵の刀を鎧で受け流す。



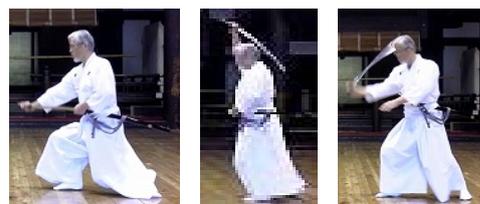
左方に流れて体勢を崩した敵に対し、左足を軸に左方に回転し、敵に向かって左足を大きく上げて踏み下ろし、右足を揃えながら諸手真っ向に斬り下ろす。左足を大きく横に広げ、刀の物打ちあたりが右膝の上にくるようにし、右手を逆手に握り替え納刀。



● 7本目「介錯」 (28:01) ※立ち膝：右足

●前方やや左に座って切腹する人を介錯する。介錯人は正面に向い、膝を合わせて正座する。右足を踏み出しつつ立ち上がりながら徐々に刀を抜きだし、右足を一步後ろに引いて左半身の体勢となる。刀は体

正面



の前から頭上を通して頭の後ろへ運ぶ。機をみて右足を踏み出し右片手で座っている者の首に斬り下ろし、斬り終わったところで左手を添える。斬り下ろした時、左手首の上辺は臍の高さ、柄頭は体の前拳一握り開けた位置にあること。刀の物打ちあたりが右膝の上にくるようにし、右手を逆手に握り替え納刀。

● 8本目「附込」(真向×2 + 血拭い) (30:16) ※立ち膝：右足

●正面に向かい正座。立居の敵が正面から斬り込んでくるので、右足を踏み出して刀を抜き、瞬時に右足を引いて後ろの左足に揃え(受流す気分)敵の斬撃を外す。体勢を崩した敵の頭部に右足を踏み出しつつ左足を引き付けながら諸手真向に斬りつける(物打が敵の顔面の高さになるように)。止めをさすことが出来なかったので、さらに右足を大きく踏み込みつつ左足を引き付けながら、居合腰となって深く斬り下ろす。右足を引いて左上段の構えをとり残心。静かに右膝を床に着けながら中段に構え、右手を逆手として左手親指と人差し指の間に刀身に添え、右手で刀を引き上げて血を拭った後、納刀。

正面



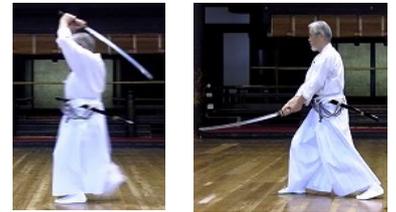
● 9本目「月影」(逆袈裟+右袈裟) (31:05) ※立ち膝：右足

●正面に対し左斜め向き(約15~30度)で正座。右前から、立った敵が上段から斬りつけてこようとするので、敵に目を向け、右足を敵の方向に踏み出しつつ柄頭を敵の前頸部に向けて抜き始め、立ち上がり

正面



ながら敵の右小手（肘）に斬り付ける。その一刀を後退して避けた敵に対し、左足を踏み込んで振りかぶり、右足を踏み込み真っ向から斬り下ろす。立居のまま大血振るいして納刀。



● 10本目「追風」（横一文字+真向）（31:50）

●正面に向かって立つ。腰を沈め居合腰となって、前方に逃れようとする敵に3歩小走り（体の重心を上下動させない）、3歩スキップで追い迫り3歩目の右足を大きく踏み込んで横一文字に斬り付ける。さらに左足を踏み出して間を詰め、振りかぶって右足を大きく踏み込んで斬り下ろす。立居のまま大血振るい納刀。



● 11本目「抜打」（真向+横血振るい）（32:23）

●正面に向かって座る。腰を浮かしながら刀を抜いていき、左手を添えながら振りかぶり、両膝を開きながら諸手真っ向から斬り下ろす。横の血振るいをして納刀。



■ 無双直伝英信流居合 <立膝の部 10本>

「立膝の部」は別名「長谷川英信流」とも呼ばれ、長谷川英信によって編まれた技群とされる。立膝は武士が甲冑を着けた場合の座り方で、その状態から始めることを基本として創案された技法である。正座の部と異なるところは

- ・ 血振るいはすべて横血振るい
- ・ 納刀と足引きは一致して行うこと

とされている。技は次の10本で構成されている。

- ☆前敵：4本（横雲，虎一足，稲妻，真向）
- ☆右敵：2本（浮雲，風）
- ☆左敵：2本（岩波，鱗返）
- ☆後敵：2本（浪返，滝落）

<無双直伝英信流・立膝の部>

- ・ 1本目：横雲 前敵
- ・ 2本目：虎一足 前敵
- ・ 3本目：稲妻 前敵
- ・ 4本目：浮雲 右敵
- ・ 5本目：風 右敵
- ・ 6本目：岩波 左敵
- ・ 7本目：鱗返 左敵
- ・ 8本目：浪返 後敵
- ・ 9本目：滝落 後敵
- ・ 10本目：真向 前敵

● 1本目「横雲」：横雲のごとく横一文字に抜きつける技法（42:08）

●立膝より正面の敵に対し右膝を踏み出して敵の首を目標に横一文字に抜き付ける。さらに両手上段に振りかぶり真っ向から斬り下ろす。

足腰はそのままで刀を右横（真横に！）へ払って血振るいし、納刀しつつ徐々に右足を左膝頭の横まで真っ直ぐ引き、引きつけた右足を横に小さく半円を描くよう回す。左臀部が左踵上に軽くつくとともに納刀し終わる。

● 2本目「虎一足」：「八重垣」の後半部を立膝から行なう技（42:53）

●正面の敵に殺意を感じ、刀に手をかけ腰を浮かせ少し左足を後方に引いて体を後退させながら抜刀し、右足に薙ぎ付けてきた敵の刀を鎧にて強く受け払う。

引こうとする敵に瞬時を与えず、左膝を進めて床に付けつつ振りかぶり、右足を踏み出し斬り下ろす。横の血振るい、納刀。



● 3本目「稲妻」：正面の敵に左足を引きつつ抜きつける（43:42）

●敵が正面より上段に振りかぶって斬り付けてくるので、咄嗟に右足を立て左足を後方に引いて低い姿勢のまま敵の小手に斬りつける。さらに左膝を進めて床につけ、すばやく諸手上段に振りかぶり右足を踏み出すとともに真向より斬り下ろす。横血振るい、納刀。



● 4本目「浮雲」（44:12）

●右横に一人隔てている敵が突然こちらの柄に手をかけようとするので、左手で鯉口を握り、立ち上がりざまに左足を左後方に踏み出し左手で柄を下方に引いて外す。

正面



左足を右足前に交差するように細かく踏み出しながら柄を胸に引き上げて右隣の人の頭をよけ、柄を帯の位置まで下げてから鯉口を切り、左足の甲を下に捻るようにしながら抜刀。剣先が鯉口を離れる瞬間、腰を充分に左方に捻って敵の肩口より胸部に斬りつける（←左足が返っている）。ただちに体を右に回し、斬り付けた刀を動かすことなく左手にて刀の腰の棟を押さえ、体全体で敵の体を押さえつけながら左手を刀身に添えて敵を全身で引き倒す（この時、**刃は外向き**になっている）。右手で刀を右斜め上に勢いよくはね上げ、腰を捻って左足左側へ斬り下ろす。横の血振るい、納刀。



● 5本目「嵐」 (44:56)

●浮雲と同様に右の敵がこちらの柄に手をかけようとしたので、左手で鯉口を握り柄を左方に引いて敵の手を外す。元に戻すと同時に右手で柄を握り右足を踏み出し、左腕を十分に伸ばして柄頭を敵顔面に一撃する。

正面



腰を捻って敵の胸部に抜き付け、左膝を中心に左足を右に少し回すと同時に右足を右横に踏み出し、左手を刀身に添えて敵を引き倒す。切先を右斜め上にはね上げ、左膝を右足後方に引き寄せ、倒れた敵と正面に正対し斬り下す。横の血振るい、納刀。



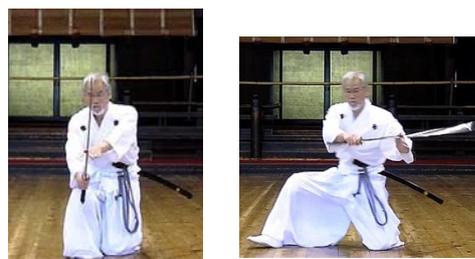
● 6本目「岩波」 (45:36)

●左の敵の殺意を察知し、刀を前方へ腰低く抜き始めながら左足を半歩引く。切先を鯉口まで抜きかけたら切先を左手親指と人差指とで挟むようにしながら、右足を軸に左に向きを変え、右足で床をトンと踏んだ後、左膝を床につけると同時に右足を前に踏み込み、相手の胸部を突く。

正面



右足を正面より90度くらい踏み開くと同時に敵の体を右横に引き倒す。以後は「嵐」と同様。



● 7本目「鱗返」 (46:17)

●左に座す敵の殺意を察知し、右足先を軸に中腰の低い姿勢で左に90度回転しながら刀を抜き始め、正面に向くと同時に左足を大きく後ろに引いて、体を沈めながら敵の首に横一文字に中腰で斬り付ける。左膝をつきながら諸手上段に振りかぶり、真向に斬り下ろす。横の血振るい、納刀。



● 8本目「浪返」 (46:52)

●後に座する敵の殺意を察知し、腰を浮かせて左回りに回りながら刀を抜き、180度回転するやいなや左足を大きく後ろに引い

正面



て体を沈め、横一文字に中腰で抜き付ける。左膝を床につきながら諸手上段に振りかぶり、右足を少し踏みだすと共に真っ向に斬り下ろす。横の血振るい、納刀。

● 9本目「滝落」 (47:26)

●鯉口に手をかけて立ち上がろうとすると、後に座する敵がこちらの錨（こじり）を握り立ち上がるので、柄を少し左に開き加減にグッと押し下げ、後方を振り返る。すかさず左足を右足の少し前に踏み出しつつ右手をかけて柄を強く胸元まで持ち上げて敵の手を振り払う。柄を下げつつ右腕を十分に伸ばして腰の高さで刀を抜ききると同時に突きを入れ、刀を抜き取るように右柄手を腹前にしっかり戻し、右足を踏み込みつつ諸手上段に振りかぶり、左膝をつくと同時に斬り下ろす。横の血振るい、納刀。



● 10本目「真向」 (47:56)

★要領は正座の「抜打」に同じ。

●腰を浮かしながら真上に抜刀し、真向上段に振りかぶる。両膝を開きながら諸手で斬り下ろす。横の血振るい、納刀。



■ 無双直伝英信流・奥居合の部 <居業 8本>

奥居合の部は立膝からの技である「居業」、立った状態から開始する「立業」、正座からの上意討用の技「暇乞」から構成されてる。敵が複数であること、両側が狭かったり、群衆がいたりするなど、様々な状況が想定されている。

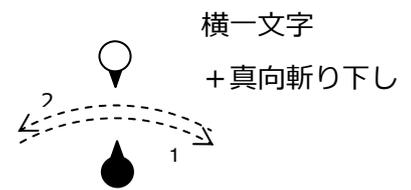
奥居合に共通する留意点としては次の2点が上げられる。

- (1) 足音を立てない：足音で自分の所在を敵に悟られてはいけない
- (2) 納刀と残心：多数を相手にする想定で、納刀を徐々にする余裕はない。

鍔元 15センチくらいまで一気に素早く納め、残り一は敵の状況に合わせて徐々に納める。

● 1本目「霞」

●立膝より正面の敵に対し、右足を踏み込んで敵の首に横一文字に斬りつけるように抜き払い、拳を上に戻して左膝を引き付けつつ敵の膝に左に逆一文字に切り返す。左後方から上段に振りかぶり右足を一步踏み出して真向に斬り下し、横の血振るい後納刀。



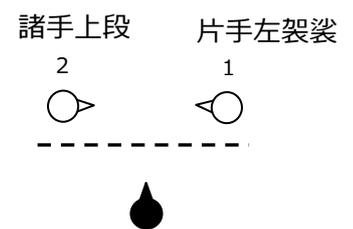
● 2本目「脛圍」

★脛圍いは立膝二本目「虎の一足」の技と同じで、異なる点は納刀の速度だけ。

●正面の敵に殺意を感じ、刀に手をかけ腰を浮かせ少し左足を後方に引いて体を後退させながら抜刀し、右足に薙ぎ付けてきた敵の刀を鎗にて強く受け払う。引こうとする敵に瞬時を与えず、左膝を進めて床に付けつつ振りかぶり、右足を踏み出し斬り下ろす。横の血振るい、納刀。

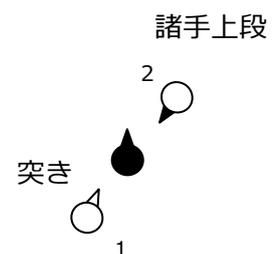
● 3本目「戸詰」

●開かれた目の前の戸の左右に向き合って座っている敵の機先を制し、正面に向かって抜き始め、右斜めに右足を踏み込む（敷居の向こうへ一步踏み出す）と同時に右斜め前の敵に腰を捻って真っ向に片手で抜き付ける。直ちに左膝頭を軸として左斜め前に右足を踏み込み、諸手上段み振りかぶり真っ向に斬り下す。横の血振るい、納刀。



● 4本目「戸脇」

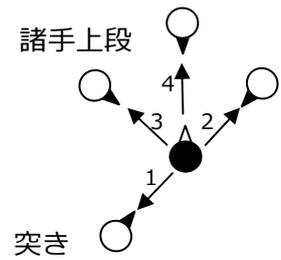
●右前と左後方に座っている敵の機先を制し、右足を踏み込んで右前の敵へ鞞頭を向けて水平に抜刀し、抜き放った瞬間刀の物打ちあたりを自分の左胸下にぴったりとつけ、左後ろ敵の胸元を突く。突いた状態から、刀身を左肘で持ち上げるようにして引き抜き、右前の敵に向き直りつつ上段に振りかぶって諸手真向に斬り下す。横の血振るい、納刀。



● 5本目「四方切」

★「戸脇」と「戸詰」を合わせた技と考えればよい。前方に3人、後方に1人の敵を想定。

●まず左後方の敵を刺突し、次に右斜め前の敵を斬り、左に向き直って斬り下し、さらに正面に向き直り前の敵を斬り下す（※左膝頭を軸にして敵方へ右足を踏み込む）。横の血振るい、納刀。

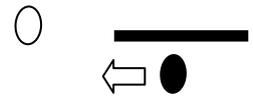


● 6本目「棚下」

★棚の下や縁の下など、頭がつかえるような低い棚下で立膝で抜刀し、頭上の障害物にぶつからないように振りかぶり、大きく踏み出してそこから抜け出しつつ敵を斬り下す。

●右足を大きく踏みだしながら柄頭を前方低く抜き始める。右手を十分に伸ばして抜刀し、左膝を寄せながら柄を頭上に刀身を背負うように振りかぶる。上体を起こしつつ右足を踏み出し（棚下を抜け出す）、諸手真っ向から斬り下す。横の血振るい、納刀。

諸手上段斬り下し



● 7本目「両詰」

●左右に壁などの障壁があり、普通に抜刀することが困難な場合に、立膝より正面の敵に対し腰を浮かしながら柄を前上方にして刀を抜き、青眼に構えて両膝を一步前進しながら十分に手を伸ばして敵の胸部を突き、さらに上段にとって両足を少し進めて真向より諸手で斬り下す。左右に障壁に当たらないように半身気味で血振るいし、納刀。

突き+諸手上段斬り

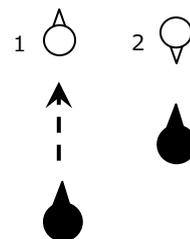


● 8本目「虎走」

●立膝で刀に手をかけ膝を曲げた低い姿勢で立ち、徐々に刀を抜きながら前方へ逃げようとする敵を前屈みで小走りに追掛け、右足を一步大きく踏み出しながら上体を起こし横一文字に抜き付ける。左膝を床に着け諸手上段から斬り下す。

横の血振るい、納刀中に他の敵が正面からくるので、左足を後ろに引くようにして踏み出しつつ上体を低くして立ち上がり、前屈みで小走りに退きながら、左足を大きく引き腰を沈めて横一文字に抜き付ける。左膝を床に着け諸手上段から斬り下す。横の血振るい、納刀。

横一文字+諸手上段



■ 無双直伝英信流・奥居合の部 <立業 13本>

● 1本目「行連」

● 2本目「連達」

● 3本目「惣捲」

● 4本目「惣止」

● 5本目「信夫」

● 6本目「行違」

● 7本目「袖摺返」

● 8本目「門入」

● 9本目「壁添」

● 10本目「受流」

● 11本目「暇乞い(一)」

● 12本目「暇乞い(二)」

● 13本目「暇乞い(三)」